

⑥1 大船渡港普金地区防潮堤整備事業

受賞機関 岩手県 沿岸広域振興局 土木部 大船渡土木センター

キーワード 狭小な施工ヤード、工場車両及び一般車両の通行確保、大船渡湾津波防護機能の確立

全建賞審査委員会の評価ポイント

防潮堤等の整備による津波防御対策。24時間稼働の工場や上空・地下の占有物件など制限が多い現場条件において、構造見直しや関係者との綿密な調整などの工夫により着実に施工し、大船渡湾全体の津波防護機能を発現できた点が評価された。

1. はじめに

岩手県沿岸南部に位置する大船渡港は、リアス式海岸の地形を利用した静穏度の高い天然の良港となっており、重要港湾に指定されている。また、海運業も盛んであり、湾奥部では立地条件を活かしたセメント生産や水産加工等を行う工場が立ち並んでいる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、普金地区付近の津波高はT.P.+10.8m（痕跡値）を記録し、港湾施設や工場施設等に甚大な被害をもたらした。

2. 事業の概要

東日本大震災による津波被害を受け、大船渡港では数十年～百数十年程度に発生する確率の高い津波（いわゆるレベル1津波）を想定して、堤防高さをT.P.+7.5mに設定し、防潮堤及び陸閘の整備を行った。

本地区の防潮堤等の整備延長は約0.6kmであり、道路と工場に挟まれた狭小な施工ヤードに加え、24時間稼働の隣接する工場への車両の通行の確保等が課題となっていた。

防潮堤の施工に当たっては、各現場に合わせた構造とし、緻密な作業計画を検討したうえで最大限安全に配慮したうえで慎重な工事を行った。



上空占有物件下での防潮堤施工

また、隣接する工場関係者と綿密な調整を行い、迂回路を確保しながらの陸閘躯体の分割施工や、工場前の道路の嵩上げを夜間の急速施工を行うなど、工場への車両の通行を最大限確保した。

本地区は、前述のとおり様々な課題があり、大船渡湾の防潮堤事業で最も難しい現場の一つとなっていたが、令和6年2月に無事完成させることができた。



完成した防潮堤と隣接する工場

3. 事業の成果

本地区は大船渡湾の防潮堤事業で最後まで残っていた現場となっていたが、本地区が完成したことにより、大船渡湾全体の防潮堤が供用されることとなった。

岩手県では、全国瞬時警報システム（Jアラート）を利用し、現地に行かなくても水門・陸閘を自動閉鎖する「水門・陸閘自動閉鎖システム」を採用しており、今後の津波襲来時には安全かつ迅速・確実に津波防護機能を確立することが可能となった。

4. おわりに

防潮堤事業をはじめとした当センターの復興事業は、大阪府などの派遣職員に御支援いただき、本地区の防潮堤事業を最後に、令和5年度末にすべて完成した。

今日まで復旧・復興を御支援いただいた応援職員や全国の自治体をはじめとする関係団体の皆様、そして現場でご尽力いただいた受注者の皆様に、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

賛助会員 (株)竹中土木